



黒田十三名誉教授

# 黒田十三名誉教授 年譜・著作目録

## 〈年 譜〉

1971年3月	中京大学体育学部健康教育学科卒業
1978年3月	中京大学大学院体育学研究科修士課程修了（体育学修士）
1986年4月	愛知女子短期大学専任講師
1987年4月	愛知女子短期大学助教授
1988年4月	名古屋外国語大学助教授
2003年4月	名古屋外国語大学教授
2014年4月	名古屋外国語大学名誉教授

## 〈著作目録〉

### ◇学術論文

- 1) 中長距離のトレーニングに関する研究（その1）（共著）中京大学学術研究会 中京体育学論叢 第13巻 2号 1972年3月
- 2) 中長距離のトレーニングに関する研究（その2）（共著）中京大学学術研究会 中京体育学論叢 第15巻 2号 1974年3月
- 3) 勤労青少年に対する体力づくりプログラムの実施とその効果に関する研究（共著）体育学研究 第19巻 第4.5号 1974年5月
- 4) 中高年者のトレーニング効果に及ぼす姿勢の影響（単著）中京大学大学院修士論文 1978年3月
- 5) 体育授業における持久的運動が16～17才男子の運動能力に及ぼす影響（共著）中西学園研究紀要 第2号 1987年6月
- 6) エアロビックダンスステップの衝撃力に関する研究－ローインパクト時で動きの大きさを変えた場合－（共著）名古屋外国語大学紀要 第2号 pp.124-134 1990年10月
- 7) エアロビックダンスステップの衝撃力に関する研究－136BPM, ローインパクトステップで動きの大きさを変えた場合－（共著）名古屋外国語大学紀要 第4号 pp.34-50 1991年7月
- 8) エアロビックダンスステップの衝撃力に関する研究－138BPM, ローインパクトステップで動きの大きさを変えた場合－（共著）名古屋外国語大学紀要 第5号 pp.42-59 1992年1月
- 9) エアロビックダンスステップの衝撃力に関する研究－160BPM, ハイインパクトステップで動きの大きさを変えた場合－（共著）名古屋外国語大学紀要 第6号

- pp.115-138 1992年7月
- 10) エアロビクダンスステップの衝撃力に関する研究－研究室で得られた成果を現場で利用するために－（共著）名古屋外国語大学紀要 第7号 pp.67-86 1993年1月
  - 11) エアロビクダンスエクササイズに関するスポーツ文化的意味とそのスポーツ技術に関する考察（共著）名古屋外国語大学紀要 第11号 pp.103-116 1995年1月
  - 12) エアロビクダンス技術の運動学的特徴（共著）順正短期大学研究紀要 23号 1995年2月
  - 13) ヘルスクラブ会員のモチベーション構造（共著）順正短期大学研究紀要 24号 1995年2月
  - 14) エアロビクに関する運動学的考察（共著）名古屋外国語大学紀要 第13号 pp.29-66 1996年1月
  - 15) 名古屋外国語大学生の体格と $PWC_{75\%HRmax}$ （共著）名古屋外国語大学紀要 第15号 pp.23-32 1997年2月
  - 16) エアロビク競技選手の筋力特性に関する一考察（共著）吉備国際大学研究紀要 第2号 1997年3月
  - 17) 大学生を対象とした日常身体活動度調査法の妥当性（共著）吉備国際大学研究紀要 第3号 1999年2月
  - 18) コンコーニAT数値解法の妥当性（共著）愛知女子短期大学紀要 第32号 1999年3月
  - 19) エアロビク競技選手の心理的特性－参加動機、態度、競技意欲について－（共著）日本スポーツ方法学会 1999年3月
  - 20) 中医学園トレーニングルームのシステム概要（共著）愛知女子短期大学紀要 第33号 2000年3月
  - 21) エアロビク選手強化プログラムに関する検討－ジュニア選手育成の実践例より－（共著）日本スポーツ方法学会 2000年7月
  - 22) 数値解法による心拍ATを使った持続的トレーニング（共著）名古屋外国語大学紀要 第21号 pp.89-99 2001年2月

◇著書

健康ライフ（共著）六法出版社 1997年4月

◇その他（マラソン記録）

- 1) 第3回香港マラソン（1983年）優勝
- 2) 富士登山マラソン（1983年）記録3時間17分
- 3) フルマラソン 36回参加
- 4) 100kmラン 1回参加
- 5) 100kmウォーク 1回参加

## 献 辞

黒田十三先生は、2014年3月31日をもって、名古屋外国語大学教授を退任されました。黒田先生は、1988年4月の本学の開学時に助教授として就任されて以来26年の長きにわたって、本学の教育に携わってこられました。総合教養科目としての体育教育の充実はもちろんのこと、学生の課外活動の支援にも尽力されました。

先生のご専門はマラソンで、ご自身は中学1年生（1961年）から走り始め、これまで53年間で走った距離は、およそ地球6周にあたる21万kmとのことです。ホノルルマラソン、香港マラソン、富士登山マラソンなど、国内外の多くの大会に出場され、成果を出されています。今でも、早朝のランニングを日課とされているそうです。今後、地球を何周されるか楽しみます。

1979年から2007年までの29年間、ホノルルマラソンに参加する市民ランナーのインストラクターを務められ、オーストラリアのゴールドコーストマラソン、香港マラソンの指導もなされていました。本学の学生の中にも参加する者もあり、その支援に力を尽くされました。

また、開学期から課外活動（部活・サークル）の顧問を積極的にお引き受けくださり、陸上競技部、軟式野球部、ボクシング部、総合格闘技部、自転車部、ハンドボール部など、いくつもの部活動を支えてくださいました。部活動の成果も華々しく、学生部長表彰者を数多く輩出し、団体の表彰も受けるほどでした。これも先生の熱心な支援の賜物でしょう。

体育館のトレーニングルームは、授業はもちろんのこと学園の学生・教職員の体力増強のためのジムとして使われていますが、その維持・管理にも携わっておられました。「先生のジムでのメニューを作りますよ。」とお誘いを受けましたが、行かずじまいで、さぞかし成果が上がっただろうにと、今頃になって「しまった!」と思っています。

最後に、これからもご健康に留意され、ランニングが続くことを祈念しております。

ここに、先生の長年のご功績を称え、感謝の意を表します。

2014年4月1日

総合教養主任  
石田勢津子